

2 探究的な学習の充実

これからの社会を生きる児童生徒が、生涯にわたって学び続け、答えのない問いに立ち向かっていくためには、目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すなど、探究的に学ぶ力を育成することが不可欠である。

さらに、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むためには、「社会に開かれた教育課程」の視点から、各学校において、地域や産業界との連携によるキャリア教育の充実を図り、児童生徒に学校で学ぶことと社会との接続を意識させることが重要である。

そこで、県教育委員会では、探究的な学習の充実を目指し、PBL（プロジェクト型学習）の考え方をを用いた授業改善や「社会に開かれた教育課程」の視点を踏まえたキャリア教育、ライフプランニング教育の充実、さらにはルーブリックを活用した学習評価の研究を進めていく。

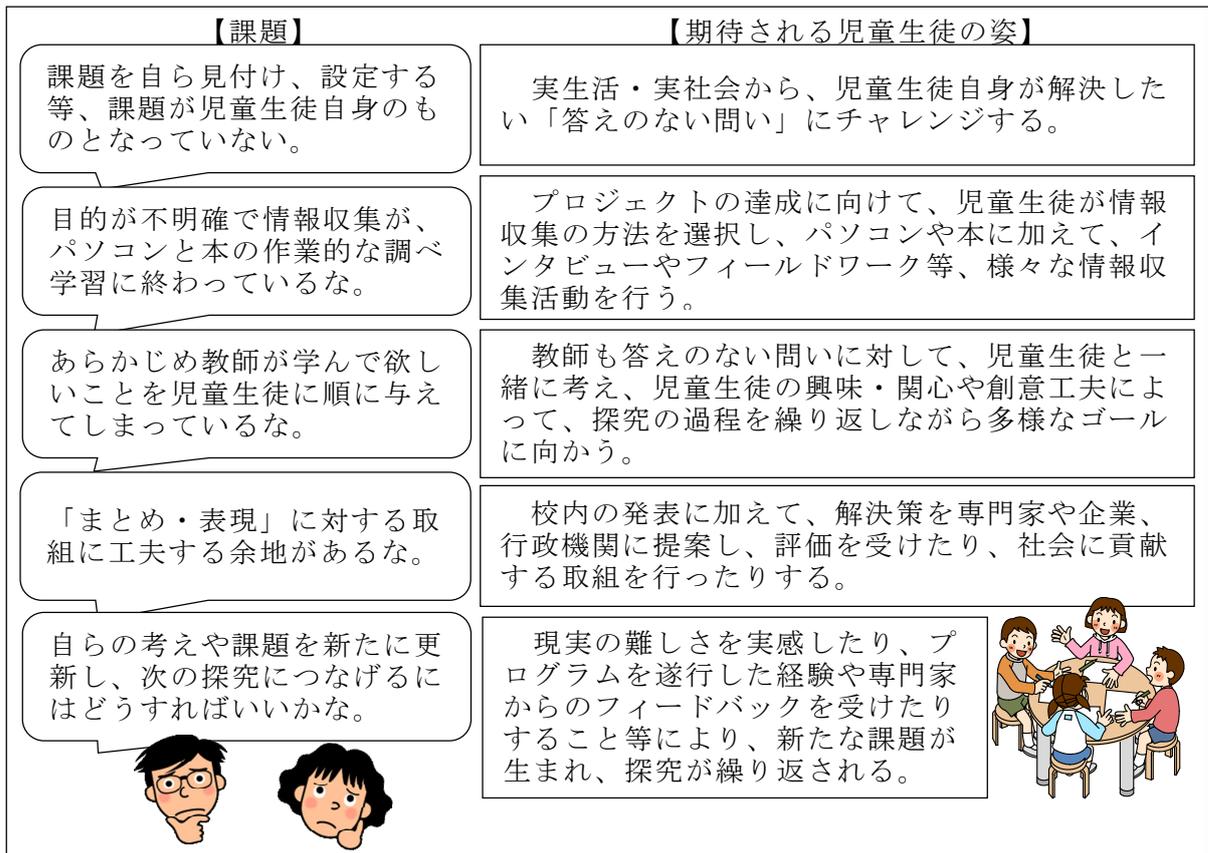
(1) PBL（プロジェクト型学習）の考え方による授業改善

「課題発見・解決学習」をはじめとした主体的な学びの質をより高め、児童生徒一人一人が思考し続けることのできる授業改善の一例としてPBL（プロジェクト型学習）の考え方がある。PBL（プロジェクト型学習）とは、「授業での子供たちの学びをプロジェクトとして組織し、その達成へと促す手法」であり、実生活・実社会の「答えがない問い」を扱い、その解決に向けて探究し、解決策を社会に提案・発信することで、児童生徒の主体的な学びを引き出そうとするものである。

【PBL（プロジェクト型学習）の特徴】

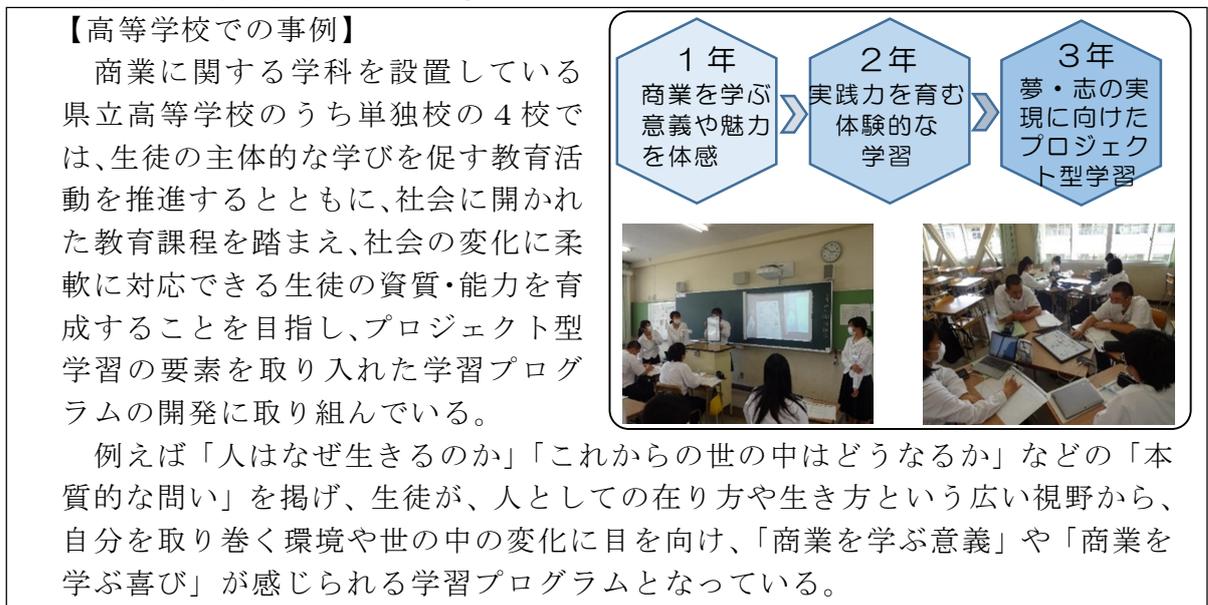
- 「答えがなかったり、ひとつの解が存在しなかったり、発展性のあるプロジェクト」を扱う学習。
- プロジェクトの遂行を通して、他の学習にも応用できる汎用的能力の育成を目指す学習。
- 「社会に開かれた教育課程」の視点で、教科等を横断しながら、実生活・実社会の課題を解決し、社会へ還元する学習。
- 「将来こうなるためにはどうしたらいいのだろう？」と考え、現実と未来のギャップを埋めるような探究を組み込む学習。

探究的な学習における課題とPBL（プロジェクト型学習）の考え方を取り入れることにより期待される効果の例は次のとおりである。



これまでの「課題発見・解決学習」の実践の積み上げの上に、PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考にしていくことで、児童生徒の探究的な学習がより一層充実していくと考えられる。さらには、児童生徒や学校の実態に合わせ、「異学年集団による実施」「小グループ等での個別の探究課題の設定」等の学習の形態の工夫や「企業等の出前授業（教育プログラム）の利用」等の様々な資源の発掘と活用等、各校がカリキュラム・マネジメントの中で、考え続けることが重要である。

本県では、令和3年度から、探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業として県内22の中学校区を指定し、PBLを参考とした総合的な学習の時間及び生活科の単元開発を行った。



(2) キャリア教育の充実

参考：本誌 第3章「キャリア教育」 P3-1

ア 小・中学校における取組例

各学校において、社会人・職業人として必要な基礎的・基本的な資質や能力を身に付けさせるためには、「卒業時点でできるようになってほしいこと」として、「基礎的・汎用的能力」を基に、キャリア教育を通して身に付けさせたい力を具体的に設定することが必要である。

広島県では、「広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」として、「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」を設定している。

これらの力の育成に向け、新学習指導要領が示す「社会に開かれた教育課程」の視点を踏まえ、今の自分たちの教科の学びが社会の発展とつながっていることを児童生徒が実感できるよう、キャリア教育において、次に示すような産業界等と連携・協力した取組の充実を図ることが重要である。

① 「出前授業」により、今、学校で学ぶ意義を実感！

身近な地域の方に留まらず、Web等を積極的に活用した産業界の外部講師の「出前授業」を、教科等と関連させながら実施する。

例えば、多様な企業が教育CSR（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）として無料で提供している教育プログラムを利用し、各教科の適切な単元で、外部講師による授業を実施するといったことが考えられる。

教室での学び



地域の企業でも「学校での学び」が常に活用され、それが私たちの暮らしを支えていることに気づく（学ぶ意義を実感する）。

出前授業



② 「職場体験」の受け先事業所と育成を目指す資質・能力を共有！

中学校では、現在、ほとんどの学校で5日間の職場体験活動が実施されている。そこに「社会に開かれた教育課程」としての視点を加え、職場体験活動を通じて育成を目指す資質・能力を、受け先の事業所と学校とが丁寧に共有しながら、実際の職場体験活動を進める。

次に示す岩手県大船渡町の中学校の事例では、企業等の社会的な使命等が生徒に伝わるよう、企業等にプレゼンテーションのテンプレートを提供し、あらかじめその作成を依頼している。各企業において作成したプレゼンテーションを活用したガイダンスを実施していただくことで、生徒は職場体験を通じて自身に身に付けたい資質・能力を意識しながら体験活動に向かっていく。

【事例】岩手県大船渡町の中学校における取組
受入先の企業等に対し、職場体験の開始時に、その社会的な使命等を生徒に伝えていただくためのプレゼンテーションを依頼（テンプレートを提供）

【受入先企業等へ提供するテンプレートの参考イメージ（一部抜粋）】

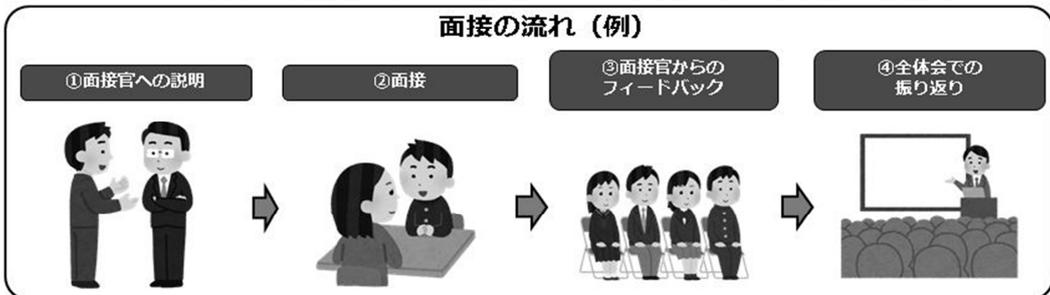
キャリア教育プログラム開発推進コンソーシアム HP <http://www.career-program.ne.jp/smile/ccd.html>

③外部人材による「面接体験」で表現する力を発揮！

次に示す横浜市立の中学校（複数校で実施）での事例では、職場体験活動の受入れ先企業の方に面接練習の試験官を依頼し、面接体験を実施している。初対面の大人の前で、これまでの学びを通じて培ってきた自分の考えをしっかりと表現する機会を設けることにより、生徒一人一人が自分自身の生き方についてさらに深く考えることとなる。

【事例】横浜市立の中学校における取組
職場体験活動の受け入先企業の方を面接練習の試験官に活用！

- ◆学年 : 中学校3年生（例年12月に実施）
- ◆面接官 : 職場体験先の方、地域の企業の方、町内会長など地域の役員の方 等
- ◆面接形態 : 個人面接（時間に余裕があれば、集団面接も実施）
- ◆質問内容 : 自己PRや長所・短所、学校生活で努力したこと等の
 学校が作成した一覧から、面接官が選択して2～3問程度実施。



地域の外部人材を活用することで・・・

- 初対面の方に対して自己を表現する，貴重な機会となる。
- 外の方からのフィードバックを得ることで，生徒の自信につながる。
- 生徒が，面接官から多様な価値観を学ぶことができる。
- 教職員も面接官から生徒の状況や学校の取組の評価を得ることができる。

イ 高等学校における取組

各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実させるため、県教育委員会では、令和元年度に文部科学省の「次世代のライフプランニング教育推進事業」の委託を受けた「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」の開発を行い、普及に向けて取り組んでいる。

この教育プログラムは、高校生が自己の在り方生き方と実社会とのつながりを意識し、就職のみならず結婚、出産、育児などのライフイベントを踏まえた生活の中で、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら主体的に意思決定できる能力と態度の育成を図ることを目指すものである。

①「高校生のためのライフプランニング教育プログラム」の概要

<教育プログラムのねらい>

設定された人物の立場となり具体的な事例の課題解決に取り組ませる活動によって、ライフプランニングのための方法と考え方を知り、自分自身のライフプランニングの意欲を高める。

<教育プログラムで育成を目指す資質・能力>

- ・ 学びに向かう力、人間性等
全ての人が多様な生き方を実現できる社会を作るために主体的・協働的に取り組もうとする態度を養う。
- ・ 思考力・判断力・表現力等
ライフプランニングのために必要な考え方や手立てについて理解し、情報を活用し意思決定する。
- ・ 知識及び技能
多様な生き方や価値観を認め合い、誰もが活躍する社会を共に作ることの重要性を理解する。

授業1 多様な生き方（ライフプラン）について知る

- ライフプランは個人の価値観が反映され、多様なものであることを理解させる。
- ライフプランニングをするために必要な行動や課題、取り組む必要があることについて、具体的に考えさせる。



授業2 ライフプランニングのために必要なことについて考える

- 社会的な仕組みや他者からの共感や理解も、ライフプランを支えるものであることを理解させる。
- ライフプランの実現を支える仕組みを理解し、支援紹介シートから、有効と考える具体的な支援を選択させる。
- 自分のライフプランニングや多様な生き方・価値観を認め合う社会づくりのために、自分ができることに取り組もうとする意欲を高める。



体験活動 インタビュー活動

- 聞きたいことを明らかにし、それに適した人材を選ぶことを通じて、身近な人のライフプランニングへの関心を高める。
- インタビュー活動を通して、ライフプランニングに向け、他者を尊重し、関わりながら自ら行動しようとする態度を養う。



<授業構成>

②開発モデル校の実施における検証報告

<開発モデル校の概要>

	広島観音	安古市	安芸南	総合技術
学科	総合学科	普通科	普通科	専門学科
教科等	産業社会と人間	家庭科	総合的な探究の時間	家庭科
学年 クラス数	第1学年 6クラス	第1学年 8クラス	第1学年 5クラス	第1学年 6クラス

<実施報告>

生徒アンケートの結果

- ・ 93%の生徒が、本プログラムを実施する際に、課題を解決しようとする主体性や情報活用能力を発揮することができたと回答した。
- ・ 自身のライフプランについて、考えていこうと思った生徒は、52.3%から96.3%（44ポイント向上）になった。
- ・ 自身のライフプランニングを実現させるための仕組みや制度について調べてみたいと思った生徒は、19.3%から86.8%（67.5ポイント向上）になった。

教員アンケートの結果

- ・ 90%以上の教員が生徒は興味をもって取り組んでいたと感じ、ねらいを達成するために発達段階に応じた有効な内容と教材であったと評価した。
- ・ 79%の教員が、本プログラムが男女の固定的役割分担意識の解消に必要な視点や他者の考えや個性を受け入れる力の取得に寄与していたと回答した。

(3) STEAM教育の視点を取り入れたカリキュラム開発

令和4年度から実施されている高等学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、各教科等の学びを基盤としつつ、多様な情報を活用してそれを統合し、課題発見・解決や社会的な価値の創造に結び付けていくことができる生徒の資質・能力の育成を目指した探究的な学びを充実させるため、STEAM教育の視点を取り入れてカリキュラムの質的向上に取り組んでいる。

複数の教科等の見方・考え方を総合的・統合的に働かせながら、文理の枠を超えて実社会の課題を取り扱い探究する活動を充実させることを目指すものである。

(4) 高等学校におけるルーブリックを活用した学習評価

本県では、令和3年度より教育目標に基づき、生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確化し、具体的な生徒の姿を見取るためのルーブリック（学校全体で育成する資質・能力のルーブリックを「マスタールーブリック」と呼ぶ）を各学校で作成し、活用していくことを通して、指導の評価・改善につなげていくことに取り組んでいる。

【ループリック作成及び活用の手順の一例】

- ① 生徒の現状を踏まえ、学校全体で育成する資質・能力を設定する。
- ② マスターループリックを作成するに当たっては、育成する資質・能力について、卒業時に到達する基準を決めて段階を設定する。
- ③ ②で作成したマスターループリックをもとに、各教科や総合的な探究の時間、特別活動等において、単元や1時間ごとの授業のループリックを作成する。
- ④ ループリックを活用して生徒に学習の到達度を確認させ、次の学習への見通しをもたせる。

【呉宮原高等学校の事例】

(作成したマスターループリック)

資質・能力	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4
＜自律＞ 様々な意見や情報を踏まえて、自分の力で考え適切に判断し行動することができる。 ① (読解力・情報リテラシー) ② (自己管理能力)	自分の力で考え判断して行動しようとしている。	自ら考え判断して行動している。	他者の意見や様々な情報を踏まえて、自ら考え判断して行動している。	内容を十分に理解した上で取捨選択した他者の意見や情報を踏まえて、自ら考え判断して適切に行動している。
＜挑戦＞ 高い目標に果敢に挑戦し、粘り強く努力を続けることができる。 ① (プランニング能力) ② (チャレンジ精神) ③ (継続力)	様々な場面や将来の進路について、自らの目標を設定しようとしている。	学校生活の様々な場面や将来の進路について、自らの目標を設定することができる。	学校生活の様々な場面や将来の進路について、高い目標を設定し、その実現に向けて挑戦している。	学校生活の様々な場面や将来の進路について、高い目標を設定し、その実現に向けて計画的に努力を続けている。
＜貢献(社会性)＞ 他者を思いやり協力して行動することにより、仲間や学校・地域に貢献することができる。 ① (他者受容・思いやり) ② (協働しようとする態度) ③ (課題発見・解決能力)	他者の存在を認め、思いやりをもって行動しようとしている。	他者の存在を認め、思いやりを持って行動している。	他者の存在を認め、思いやりを持ちながら、協力して行動することができる。	仲間や集団、学校・地域の課題に対して、他者と協力しながらその解決のために取り組んでいる。

＜自律＞

- ① (読解力・情報リテラシー) = 他者の意見を素直に受け入れるとともに様々な情報を自ら収集して、それらの内容を理解した上で適切に取捨選択することができる。
 ② (自己管理能力) = 他者の意見や収集した情報を踏まえて、自ら考え判断して適切な行動をとることができる。

＜挑戦＞

- ① (プランニング能力) = 自ら目標を設定し、その目標達成のための行動計画を立てることができる。
 ② (チャレンジ精神) = 自ら定めた目標に果敢にチャレンジしている。
 ③ (継続力) = 目標達成に向けた努力を継続することができる。

＜貢献(社会性)＞

- ① (他者受容・思いやり) = 他者の存在を認め、思いやることができる。
 ② (協働しようとする態度) = 他者と協力して行動することができる。
 ③ (課題発見・解決能力) = 自ら課題を設定し、その解決のために取り組むことができる。